

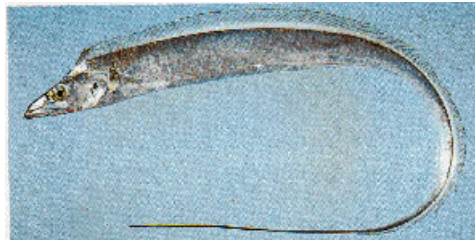
平成18年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 タチウオ

学名 *Trichiurus japonicus*

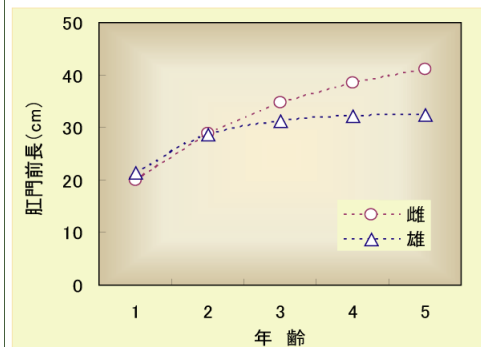
系群名 日本海・東シナ海系群

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 8歳
成熟開始年齢: 1歳(一部)、3歳(100%)
産卵期・産卵場: 春～秋季、盛期は春季と秋季、主に黄海・渤海を含めた中国沿岸、我が国沿岸でも産卵
索餌期・索餌場: 東シナ海での越冬場は東シナ海中・南部、日本沿岸にも分布
食性: 主に小型個体(肛門前長200mm以下)は小型甲殻類、中・大型個体は小型魚類
捕食者: 不明

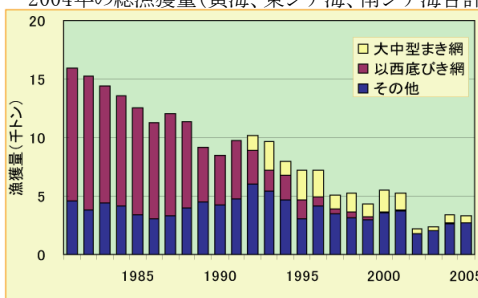


漁業の特徴

かつては全国のタチウオ総漁獲量の7～8割を以西底びき網漁業が占めていた。近年の漁獲量は大きく減少し、現在の以西底びき網による漁獲量はピーク時の0.1%以下になっている。代わって近年では、大中型まき網、はえ縄、定置網、釣りなどが漁獲の大部分を占めている。また我が国200海里内で、タチウオを漁獲対象とした韓国漁船による操業が近年増加している。

漁獲の動向

我が国の本系群の漁獲量は1980年代から減少を続け、2004年の漁獲量は1981年の21%程度、約3千トンであった。韓国はタチウオを大量に漁獲しているが、漁獲量は1983年の153千トンから2004年の66千トンまで減少した。2005年の我が国200海里内における韓国の漁獲量は、約1千トンである。中国は近年100万トン以上の漁獲を記録しており、2004年の総漁獲量(黄海、東シナ海、南シナ海合計)は140万トンであった。

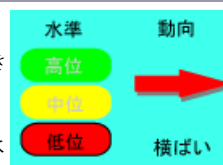


資源評価法

日本の漁獲量、韓国の漁獲量、以西底びき網漁業の近年の操業域でのCPUE(1網当たり漁獲量)、沖合底びき網漁業の資源密度指数、釣りなどの沿岸域漁業のCPUEから相乗平均を求め、その推移から資源水準と動向を判断した。

資源状態

以西底びき網漁業のCPUEは変動しながらも1987年以降減少傾向が続いており、特に1994年以降の減少は著しい。沖合底びき網漁業のCPUEは、1970年代後半以降変動を繰り返しているが、1970年代前半までと比べてかなり低い水準で推移している。大中型まき網の漁獲量は比較的安定していたが、2002年以降は大幅に減少した。これらを除いた沿岸漁業による漁獲量は、1992年以降減少傾向である。以西底びき網漁業による漁獲物の銘柄組成は、1980年代後半～1998年をピークに急速に小型化が進んだ。これらのことから、資源量は強い漁獲圧のために1980年代後半から減少を続け、現在では極めて低い水準にあると考えられる。2002年以降の我が国のタチウオ漁獲量は2,000～3,000トン台を推移しており、横ばい状態であると考えられる。



管理方策

本系群の資源を回復させるために、過剰な漁獲圧を削減するべきである。しかし、本資源に対する強い漁獲圧の大部分は我が国200海里外における外国によるものであり、資源を回復させるためには我が国漁業の漁獲量を制限するのみならず、関係各国との連携により東シナ海全域での漁獲圧を削減することが不可欠である。また、漁獲の適切な管理とともに、生態学的知見を深めるとや、我が国水域内で再生産を行っている親魚量を増加させる必要がある。2003～2005年の漁獲量の平均に0.7を乗じた値をABClimitとし、その0.8倍をABCtargetとした。

	2007年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	3,300トン	0.7Cave3-yr	-	-
ABCTarget	2,600トン	0.8・0.7Cave3-yr	-	-

- ただし、東シナ海と日本海を含んだ値で、日本周辺200海里内の日本および韓国漁船の合計値

資源評価のまとめ

- 1980年代以降、変動を繰り返しながら資源は減少している
- 漁獲圧が過剰である

管理方策のまとめ

- 漁獲圧の削減が必要
- 資源を回復させるためには関係各国との連携により、東シナ海全域での資源管理が不可欠
- 生態学的知見を深め、我が国水域内での親魚量を増加させる

資源評価は毎年更新されます。